

野生動物が傷つく要因の中には、私たち人間の行動や生活が関わっているものも多くあります。それらの要因を知り、日常生活の中で少し気を付けることで、傷つく野生動物を減らすことができるかもしれません。

要因① 交通事故

哺乳類に多い救護原因です。特に、タヌキは下を向いてエサを探しながら歩き、びっくりすると失神したように体が動かなくなってしまう性質(擬死)があるため、交通事故に遭いやすいといわれています。

わたしたち にできること

市街地にもタヌキなどの野生動物は生息しています。動物の飛び出しの可能性を考慮して運転すると、防げるかもしれません。春の繁殖期や秋の親離れの時期に増加するため、特に注意したいところです。



車に轢かれたタヌキ

要因② ペットや外来種に襲われる

他の動物に食われることは自然の営みの中では当たり前のことですが、ネコなどのペットやアライグマなどの外来種に襲われることは、本来の自然の仕組みとは違い、野鳥や小型哺乳類にとって大きな脅威となっています。

わたしたち にできること

本来日本の自然にいなかった動物は、人間が放したために定着し、増えたものです。ペットは最後まで責任をもって飼育しましょう。



ネコに襲われたキジバト
外で生活しているネコは野生動物を傷つけることがあります。ネコの爪や歯は鋭く、襲われると重症となり死亡率が高くなります

要因③ 釣り針、釣り糸や網

川や海、湖などで、放置された釣り針や切れた釣り糸などにより、水辺に生息する野鳥が傷ついています。間違えて飲み込んでしまってエサを食べることができずに衰弱して死んでしまったり、脚や体に巻きついて羽や脚を失い、自然の中では生きていけなくなります。

わたしたち にできること

釣り針や釣り糸に限らず、人が残したものは野生動物に影響を与える可能性があります。ゴミは必ず持ち帰りましょう。捨てたつもりはなくても、落とすもの、忘れものにも要注意です。



シロエリオオハムの口に刺さった釣り針

要因④ 窓ガラスへの衝突

空が映り込んだガラスに、通り抜けられると思った鳥がぶつかってしまうことがあります。軽い場合は数分～数時間、脳震とうを起こすだけで回復する場合がありますが、衝撃が大きいと骨折したり、内臓を傷つけたりして死亡することもあります。

わたしたち にできること

窓ガラスの存在を鳥に認識してもらうことが重要です。白いカーテンやブラインドを使用することで防げることがあります。また、建物を建築する際には鳥に安全なデザインにするなど、人間側の配慮で避けられます。



衝突により打撲を負ったアオバズク

要因⑤ 誤認保護

本来は保護する必要がない動物を保護してしまうケースです。ほとんどが巣立ったばかりのヒナ(巣立ちヒナ)やタヌキの幼獣で、子どもだけにいるところを人間に見つかり、まだうまく飛べなかったり、逃げたりできないため、親からはぐれて弱っているように思われてしまいます。親は近くで見守っていたり、一時的に出かけているだけで、はぐれてしまったわけではなく、まだ育児を継続しているところです。人間が誤って保護してしまうと、自然で生きていくべきを親から学ぶ機会を奪ってしまうことになります。

わたしたち にできること

小さく弱々しいヒナや幼獣を見つけると、手を差し伸べたくはなりますが、自然の仕組みを理解して、野生動物の営みには手を出さず見守りましょう。



ヒヨドリ幼鳥



誤認保護が多いタヌキの幼獣

要因⑥ ねずみとり(粘着シート)

ネズミやハチを捕るための粘着シートを、庭やベランダに設置したために野鳥が被害にあってしまうことがあります。強力な粘着剤に捕まると、自力で逃れることは難しく、体力を消耗し、翼や脚を痛めて衰弱します。

※ 野鳥が貼りついてしまったら、無理にはがさず、救護施設にご相談ください。



粘着剤により羽の抜けたスズメの幼鳥

わたしたち にできること

家の外にいるのはネズミやハチだけではありません。粘着シートを野外に置くのはやめましょう。



粘着剤に貼りついたジョウビタキ

野生動物にエサをやらないで!

可愛いから、可哀想だからと野生動物にエサを与えると、野生動物本来の能力を奪うことにつながったり、自然の生態系のバランスを崩したりしてしまう可能性があります。

また、野生動物がエサに引き付けられて集まることで、**交通事故**や**粘着シートの被害**にあったり、**疥癬などの感染症**の蔓延にもつながります。

わたしたち にできること

野生の生き物はペットではありません。安易なエサやりはやめましょう。生ゴミや置きエサ、放置された果樹なども意図せず野生動物を引き付けてしまう場合があります。野生動物がその場に執着してしまう要因をつくらぬよう気を付けましょう。